



私たち 66 回生は、7 月 5 日（日）に行われた本社研修に参加しました。9 校の赤十字看護専門学校が全国各地から集まり、意見交換や学校紹介のプレゼンテーションを行い、各地域の特色や学校独自の活動等を知り、ともに学ぶ赤十字の仲間としてのつながりを感じることができました。また、

国際人道法やハイチで活躍された看護師による国際救護の実際、これから求められる看護師像についての講演を聴き、改めて赤十字の理念や活動を認識し、赤十字の一員としての自覚を高めることができました。創始者であるアンリーデュナンの人種や価値観で差別することなく人を救いたいという思いを大切に、この研修での経験を今後の学習に活かしていきたいと思います。

66 回生 小又友紀子

研修内容紹介

- ・講演「赤十字の国際活動」講師：さいたま赤十字病院看護師長 菅原直子氏
- ・ポスター発表 事前に「学校紹介・『今』取り組んでいる活動紹介」を模造紙にまとめており、他校の生徒を前に、全 7 回発表を行った。
- ・講演「国際人道法について」講師：日本大学法学部教授 河合利修氏
- ・学生交流
「赤十字の一員として大切にしたい事、『今』自分にできること」についてグループワークし、その後全体発表を行った
- ・講和「赤十字看護学生に期待すること」講師：日本赤十字社事務局 看護部長 小森和子氏



東京にある日本赤十字看護大学の広尾ホールに、9 校の赤十字看護専門学校の学生 340 名が集まりました。日頃聴くことのできない貴重な話を聴く事ができました。

事前に作成した模造紙の前で、「学校紹介・『今』取り組んでいる活動紹介」についてプレゼンテーションしました。各学校とも内容やまとめ方が個性的でとても楽しく聴くことができました。





～本社学生研修の感想～

普段の講義とは違い、とても現実的でわかりやすく、感動的な講義で色々考えたり、感じたりすることが多くありました。あらためて赤十字の活動は素晴らしいと思いました。同時に、今の自分や将来自分は何をすべきかを考えさせられました。

ハイチの方々への支援、指導の大変さは以前授業でビデオを見て知っていたが、体験談を聴くことでさらに実感がわき、国際活動の大変さ、文化や言葉を越えた活動の大変さを改めて感じた。

国際活動でトイレを作るだけでなく、トイレで排泄することや排泄後の手洗いの重要性も伝えていたということが印象的だった。現地の人たちの力で生活をよくできるような支援の方法を考えなければいけないということがわかった。

看護師には活動の幅があり、自分も目指せば国際活動に取り組むことができるとわかり、国際活動を身近に考えることができた。

ジュネーブ条約について詳しく学ぶことができた。アンリー・デュナンの映像はすごく心が痛くなるものであり、あのような状況にもし自分がいたらと考えると、アンリー・デュナンのすばらしさに感動した。

赤十字の一員としてふさわしい人材になるためにも、普段の生活からこつこつ大切に取り組んでいくことの大切さを感じた。キャリアアップにより就職後も成長していける仕組みが整っている事を学んだ。

会場にいる全ての学生が赤十字の一員となって将来共に活躍する仲間なのだと感じることができた。

小森看護部長の言われた、先見性、開拓、創造、確実な看護実践力、赤十字人づくりを大切にしていきたい。

今回初めて他校の方と交流し、他校の学校紹介や取り組みを聞き、それぞれの学校の地域性や伝統を知ることができ、とても貴重な体験となった。

